

わたしの祭語りepi. 6

矢島好美

第44～副実行委員長



おまんた祭りとは…

まちづくりに関わるきっかけの場である



お祭り期間中はどのような活動をされていますか？



第42回のお祭りから関わり、1年目は事務局でアルバイト、その後は副実行委員長として大好きなお祭りに関わらせてもらっています。

私の役割は「エンジン」。企画やスケジュールを事務局や部会と一緒に立てることはもちろんですが、それを動かすにはエンジンの役割が必要です。

来場者、出演者、出店者、スタッフ、お祭りに関わる全ての人たちがお祭りのその1日に全てをかけてくれています。当日の運営がスムーズに、そして楽しい1日になるよう、3か月という短い準備期間でエンジンをフルで回して準備を進めていきます。

その他SNSを使った広報活動やゲスト、出演者の対応なども担当しています。あとはボランティアの皆さんと情報を共有しながら現場をつくっていくのも私の役割です。お祭り当日に、本部テント前で眉間にシワを寄せている人がいたら、それは私だと思います(笑)



過去のおまんた祭りの思い出を教えてください。



小学生の頃にチアリーディングのクラブでお祭りのステージに上がったことがあります。なんとも言えない緊張感と人前でパフォーマンスを披露する高揚感を感じたことを今でも覚えています。自分たちの練習の成果に対して温かい拍手や大きな声援がもらえる瞬間を今の子供たちにもたくさん味わって欲しいと思います。この経験があったからこそ今では、どんな舞台にたっても「きっと今日も楽しくできる！」という妙な自信を持てるようになりました。

子供のころからお祭りに関わるきっかけを作っていくことが私たちに今できることだと思います。大人になりこのまちを出ることになったとしても、暑い夏がくると「おまんた囃子」の音色が聞こえ糸魚川のまちを思い出す。そんな子供たちを増やしていきたいです。



未来のおまんた祭りへメッセージをお願いします。



事務局、ボランティア含めて担い手不足も課題の一つです。個人的には祭りはまちづくりの第1歩と考えています。地域と一緒に、同世代と手を取り合い、まちを知ろうとすることでお祭りが完成していきます。まちづくりも同じ。いかに自分ごととして考えていけるかが大切になります。

それと同時に「おまんた囃子」の継承も考えていかななくてはなりません。おまんた祭りもさることながら、皆さんの気持ちを高揚させているのは夏になると聞こえてくる「おまんた囃子」だと思います。祭りのメイン企画である大市民流し。三波春夫先生の声が流れる乱調はお祭りの一番の見せ場です。各地の名所・旧跡を歌詞にのせたお囃子は懐かしさと共に、なにか自分の地域への誇りを感じることができる唄い継がれるべきお囃子です。

私も未だに自分が住む地区の歌詞が一番かっこいいと思っています。現在、おまんた囃子保存会を中心に様々な団体、経験者の方などと今後に向けた話し合いを進めています。若い世代に「もっとおまんた囃子を！」ということで今後はSNSでの発信もより強化していきたいと思っています。

祭語りをお読み頂きありがとうございました。
皆さま、お楽しみ頂けましたでしょうか？

【祭語りについて…】

毎年事務局の開局期間は9月まで。そのあとはSNSも休止していましたが「おまんた祭り」に少しでも関心を持ってもらうきっかけとして「祭語り」をスタートさせました。

今後もお祭りに携わる、出演者の皆さん、関係者、ボランティアの皆さんの語りをお届け出来たらと考えています。

おまんた 男度胸でぶつかる春の喧嘩祭りにやヨ
稚児の舞う手に花びらかかる
桜花咲く 一ノ宮…

おまんた囃子より